

名前 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 組 \_\_\_\_\_

# 県児童会館進む老朽化

## 設備に不具合、休止や使用制限

建設から45年を迎える秋田県児童会館（秋田市山王）の老朽化が課題となっている。遊具の故障や建物の不具合が頻発し、休止したり使用を制限したりする設備もある。指定管理者のNPO法人あきた子どもネットは「子育て世代の**①必要感**に

しかし、近年は雨漏りなどの不具合が相次いで発生。屋根が腐食し、雨水が侵入して床に流れてくる箇所があるほか、さびついて開きにくくなっている扉もあるという。子どもネットに

よると、23年11月には床下に設置されている暖房用温水パイプが一部腐食していることが判明。指定管理料とは別に県が予算を組んで修理工事を行った。設備の稼働も万全ではない。1階ホールにあるロボットは数年前に故障してから使用停止のまま。部品製造が終了しており、復旧のめどは立っていないという。

「子育て世代の**①必要感**に  
 ②空  
 ③進捗」と訴えている。

人気のプラネタリウムは25年以上前のモデルを使用している。こちらも部品の生産が終了しており、故障しても交換できない」と話す。

指定管理料は年間約6千万円。このうち修繕費として毎年4%程度（約250万円）が計上されているが、設備の不具合が年々増加し、修繕を先送りせざるを得ない**④事案**が増えている。光熱費も上がっており、照明など消耗品の購入にも予算を回すことができない状況だという。

### 修繕を先送りせざるを得ない**④事案**も

指定管理料は年間約6千万円。このうち修繕費として毎年4%程度（約250万円）が計上されているが、設備の不具合が年々増加し、修繕を先送りせざるを得ない**④事案**が増えている。光熱費も上がっており、照明など消耗品の購入にも予算を回すことができない状況だという。

指定管理料は年間約6千万円。このうち修繕費として毎年4%程度（約250万円）が計上されているが、設備の不具合が年々増加し、修繕を先送りせざるを得ない**④事案**が増えている。光熱費も上がっており、照明など消耗品の購入にも予算を回すことができない状況だという。

建設から45年となる県児童会館



建設から45年となる県児童会館

確保、育成が欠かせないが、人件費を上げられず、人材確保も難しくなっている。指定管理が始まった当初、職員に占める正社員の割合は76%だったが、現在は50%。事業の企画運営を担う人手も減り、**⑤行事**数も削減を余儀なくされている。育児相談などで訪れるという秋田市東通の女性(43)は「子どもを広い室内で自由に遊ばせられ、駐車場もかからないので助かっている。冬場は外出が減り気分が落ち込みがちだが、会

館に来ると前向きになれる」と話す。若松重紀館長は「子育て支援の拠点として、設備や遊具をしっかり整えたり、充実した人材体制を築いたりする必要があるが、難しくなってきた。親子に寄り添う施設であるために、予算面での早急な対応が必要だ」と訴える。施設を所管する県次世代・女性活躍支援課は「指定管理費は、小規模の修繕や緊急での対応が必要な修繕、遊具の更新などに

かかる経費を加味して決めている」と説明。県有公共施設の総合管理計画に定められた県児童会館の目標使用年数は残り15年ほどで、それまでは維持する方針。ただ、その後の建て替えは未定だ。「不具合が生じた設備は、安全性や緊急性の観点から修繕の必要性を判断し対応したい」とした。

△秋田魁新報2025年2月3日付より。記事は手直しています▽

### 1 【記事A】本文中の表現について、次の(1)～(3)の問いに答えましょう。

(1) 次のア～コの漢字の読み仮名を書きましょう。

- ア 頻発
- イ 修繕
- ウ 賄う
- エ 推移
- オ 腐食
- カ 床下
- キ 消耗
- ク 余儀
- ケ 拠点
- コ 維持

カ	ア	キ	イ	ク	ウ	ケ	エ	コ	オ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(2) ①～⑤の言葉と同義の外来語を、次のA～Jから一つ選び、記号で答えましょう。

- A ムード
- B ケース
- C レベル
- D ペース
- E セレモニー
- F タイプ
- G ニーズ
- H スペース
- I テーマ
- J イベント

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

記事A

# 県児童会館進む老朽化

## 設備に不具合、休止や使用制限

建設から45年を迎える秋田県児童会館（秋田市山王）の老朽化が課題となっている。遊具の故障や建物の不具合が頻発し、休止したり使用を制限したりする設備もある。指定管理者のNPO法人あきた子どもネットは「子育て世代の必要だが、現状の指定管理料では賄いきれない」と訴えている。

現在の県児童会館は1980年に開館。国際教養大図書館も手がけた建築家・仙田満さんが設計し、館内には大型遊具や子どもが走り回れる広い**②空間**、778席の劇場を備える。

2008年度から指定管理者制度を導入し、年間来館者数は10万〜12万人で推移。コロナ禍の20年度には4万7千人まで落ち込んだものの、その後回復し、23年度は約11万人に上った。24年度は24年12月時点で約8万8千人。23年度を上回る**③進捗**となっている。

しかし、近年は雨漏りなどの不具合が相次いで発生。屋根が腐食し、雨水が侵入して床に流れてくる箇所があるほか、さびついて開きにくくなっている扉もあるという。子どもネットによると、23年

11月には床下に設置されている暖房用温水パイプが一部腐食していることが判明。指定管理料とは別に県が予算を組んで修理工事を行った。

設備の稼働も万全ではない。1階ホールにあるロボットは数年前に故障してから使用停止のまま。部品製造が終了しており、復旧のめどは立っていないという。

人気のプラネタリウムは25年以上前のモデルを使用している。こちらも部品の生産が終了しており、故障しても交換できない状況。設備更新には3千万円ほどかかる見込みで、子どもネットは「予算の都合上、故障してしまうと再開は難しいだろう」と話す。

指定管理料は年間約6千万円。このうち修繕費として毎年4%程度（約250万円）が計上されているが、設備の不具合が年々増加し、修繕を先送りせざるを得ない**④事案**が増えている。光熱費も上がっており、照明など消耗品の購入にも予算を回すことができない状況だという。

幅広い年代の子どもたちが安心して利用するためには職員の確保、育成が欠かせないが、人件費を上げられず、人材確保も難しく

なっている。指定管理が始まった当初、職員に占める正社員の割合は76%だったが、現在は50%。事業の企画運営を担う人手も減り、**⑤行事**数も削減を余儀なくされている。

育児相談などで訪れるという秋田市東通の女性（43）は「子どもを広い室内で自由に遊ばせられ、駐車場代もかからないので助かっている。冬場は外出が減り気分が落ち込みがちだが、会館に来ると前向きになれる」と話す。

若松亜紀館長は「子育て支援の拠点として、設備や遊具をしっかり整えたり、充実した人員体制を築いたりする必要があるが、難しくなってきた。親子に寄り添う施設であるために、予算面での早急な対応が必要だ」と訴える。

施設を所管する県次世代・女性活躍支援課は「指定管理費は、小規模の修繕や緊急での対応が必要な修繕、遊具の更新などにかかる経費を加味して決めている」と説明。県有公共施設の総合管理計画に定められた県児童会館の目標使用年数は残り15年ほどで、それまでは維持する方針。ただ、その後の建て替えは未定だ。「不具合が生じた設備は、安全性や緊急性の観点から修繕の必要性を判断し対応したい」とした。

△秋田魁新報2025年2月3日付より。記事は手直ししています▽

(3) 次のア〜エの熟語の中で、組み立て方が他と異なるものを一つ選び、記号で答えましょう。

- ア 老朽化
- イ 不具合
- ウ 修繕費
- エ 緊急性

2

【記事A】の内容について、次の(1)(2)の問いに答えましょう。

(1) 秋田県児童会館が現在抱えている問題について正しい内容のものを、次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えましょう。

ア 多くの設備は部品が25年以上前のモデルであるため故障して使えなくなった。

イ 雨漏りなどにより腐食した屋根や温水パイプなどの修理が予算不足のため進んでいない。

ウ 不具合が年々増加しているうえに光熱費も上がったため消耗品の購入にも予算が回せない。

エ 職員が50%に減り幅広い年代の子どもたちが安心して利用できる体制が整えられずにいる。

(2) 施設の老朽化で維持・管理が難しい中、秋田県児童会館がコロナ禍後も順調に来館者数を維持できている理由を次の三点に整理しました。空欄ア〜ウに当てはまる言葉を、【記事A】本文中から抜き出して書きましょう。

一 [ア] など、子どもの探究心や知的好奇心を高めるような施設に人気があるため。

二 子どもを広い室内で自由に遊ばせることができる設備や [イ] が、駐車場代をかけることもなく無償で利用できるため。

三 育児相談などの事業を通して [ウ] の拠点となっているため。

ア
---

イ
---

ウ
---



記事B

# 山形はなぜ屋内遊戯施設が充実？ 活性化へ集客効果に期待

「山形県には子どもや家族連れが無料で楽しめる大型室内施設が多いと聞き、気になっっている。何か事情があるのでしょうか」。「こちらさきがけ特報班(さきとく)」に秋田県内の女性からこんな疑問が寄せられた。本県の子育て世代には同種施設の整備を望む声が強強い。取材を進めると、集客効果を地域活性化につなげようと、子育て環境の充実に取り組む山形県の自治体の姿勢が見えてきた。

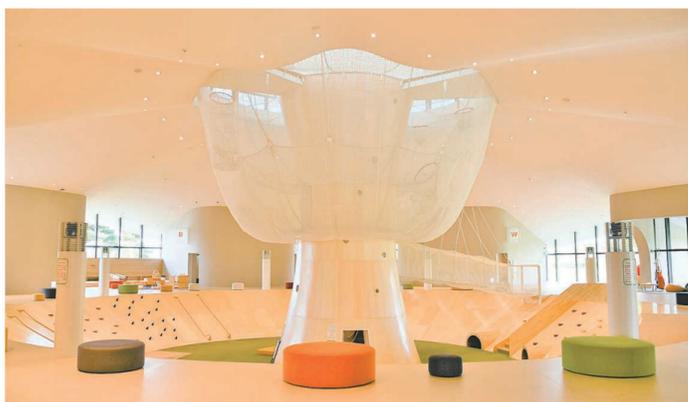
山形県が運営する子育て情報サイト「やまがたわくわく体験ガイド」には、各市町村に所在する施設がまとめられている。巨大ネット遊具を備えた上山市の「めんごりあ」、高低差のある滑り台が人気の東根市の「さくらんぼタウン」、クルセンターけやきホール、海をイメージした大型ボールプールが呼び物の長井市の「くるんと」などが目を引く。入場無料のほか、この10年ほどの間に開業、リニューアルした施設も多い。先駆けは

2014年12月に開館し、翌15年7月に屋外施設と合わせてグランドオープンした山形市の「べにっこひろば」。当初は年間利用者を18万人と見込んでいたが最初の1年間で30万人を超え、10年の節目となる昨年12月には累計200万人を達成した。22年4月には市内2カ所目の拠点として「シェルターインクルーシブプレイス コパル」が開業。障害の有無を問わず誰もが遊べる場所として人気を集め、来場者は今年2月に累計50万人を突破した。

## 市全体の誘客力向上

市によると、両施設は県外からの利用も多く、市全体の誘客力の向上をもたらしているという。市こども未来課の担当者は両施設の集客が宿泊や飲食事業者にも波及しているとし、「明確に数値化はしていないが『今回はべにっこひろばで遊んだから次はコパルへ』というように使い分けられている」と話す。近隣市町村でも同種施設を

整備する動きが続く。担当者は「自分たちも整備し、住民満足度や誘客の底上げを図ろうという意識が働いているのではないか」とみる。例えば同市の北西に位置する寒河江市では昨年4月29日に「クラッピン サガエ」がオープンした。道の駅「寒河江チェリーランド」のリニューアルと連動した事業で、前市長が公約に掲げていた。建物の中央に高さ10層の大



山形県寒河江市の「クラッピン サガエ」。大型遊具のほか、さまざまな学びが体験できる部屋がある

型ネット遊具「せかいじゅ」がそびえるほか、子どもの発達段階や興味、関心に応じて遊べる部屋も用意。工作やプログラミング、英会話など学びのメニューも充実する。市子育て推進課の担当者は「遊びだけではなく、音楽や外国語に触れたり学んだりできる施設」と特徴を話す。市内中心部から車で30分程度で、山形市など近隣3市に子育て世代向け施設がある中、今年3月末までの利用者は15万7千人に上った。内訳は市民4万人、県内9万人、県外2万6千人と7割以上が市外からの利用だった。

整備効果は道の駅にも波及している。24年度の来場者は28年ぶりに記録を更新、過去最高の183万人となった。担当者は「道の駅に併設することで訪れやすいと評価され

ている。施設は無料で利用できるが、道の駅での買い物や市内の飲食店の利用の呼び水になっている」と分析する。

**自治体間に競争意識**

「子育てするなら山形県」とのスローガンを掲げる同県。子育て政策の担当者は「県内は夏は暑く冬は寒い。屋内施設のニーズが高いことも充実している理由ではないか」と話す。担当部署の名称は「しあわせ子育て応援部」としてあり、結婚前段階から切れ目ない支援に当たり、人口減少や少子化対策に向かう姿勢がうかがえる。

山形県内に大型室内施設が目立つ背景には、子育て世代の取り込みが地域に活力をもたらすとしていいることや、自治体間に競争意識が存在していることが考えられる。

秋田県内では大仙市や能代市、湯沢市などで屋内遊戯施設の整備事業が進む。親子が天候を気にせず遊べるだけでなく、施設を核にした地域のにぎわい創出も運営の重要な視点といえそうだ。

〈秋田魁新報2025年5月13日付より。記事は手直ししています〉

4

【記事B】を読み、次の(1)～(3)の問いに答えましょう。

- (1) 山形県に子供や家族連れが無料で楽しめる大型室内施設が多い理由として、どのような可能性が挙げられているでしょう。次のア～オの中から正しいものを二つ選んで記号で答えましょう。
- ア SNSなどを利用して県内外の子育て世代のニーズを把握した成果を生かしているから。
- イ 子育て世代の取り込みを地域活性化につなげようとする自治体間の競争意識が高まっているから。
- ウ 夏は暑く冬は寒い県内の気候の特徴から無料で利用できる屋内施設のニーズが高いから。
- エ 飲食店や宿泊施設などからの収益の一部を屋内施設の建設に積極的に活用しているから。
- オ 子供だけでなく幅広い年齢層のニーズに対応しようとする自治体の施策にふさわしい取組だから。

